# 釜山日本人学校における地域教育資源を活かした体験学習の実践

前釜山日本人学校　教諭
石川県七尾市立能登香島中学校　教諭　大　根　　誠

**キーワード：体験学習、宿泊学習、韓国、釜山、現地理解**

## 1．はじめに

在外教育施設における地域の教育資源を活用した学習は、国内ではできない貴重な体験ができる機会である。日本人学校では、国内と同じように学習指導要領に準拠したカリキュラムで日々の教育活動が行われているが、子ども達に身につけていくべき資質や能力をどのような方法で行っていくかは各学校で創意工夫がされているものと思われる。

このレポートでは、釜山日本人学校における体験学習の実践を報告し、在外教育施設での体験学習について紹介したい。

## 2．体験学習について

文科省から出ている体験活動事例集や、平成25年に出された中教審による体験活動の推進に関する答申では、体験的な活動を通じて子ども達が学ぶ意義・効果が以下のようにまとめられている。

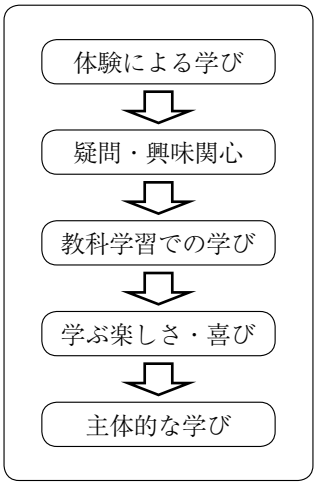
(1)「社会を生き抜く力」の養成　…　コミュニケーション能力、自立心、協調性、チャレンジ精神等の向上
(2) 自然や人とのかかわり　…　他者への共感や日本人としての心の成長、命の尊さの学び
(3) 規範意識・道徳心の育成　…　道徳的価値観の涵養、職業意識、人間関係能力の向上
(4) 学力の向上　…　全国学力調査「活用」問題の正答率向上、PISA 型読解力得点向上
(PISA: Programme for International Student Assessment)
(5) 勤労観・職業観の醸成　…　生活の原点に戻る体験によって働くことの意味を実感する
(6) 社会的・職業的自立に必要な力の育成　…　多様な年齢・立場の人とのかかわりから将来を考えさせる
(7) 課題を抱える青少年への対応　…　人間関係形成力の育成、規範意識の醸成

これらを踏まえ、体験学習における目標を以下のようにした。目標に関しては、小学部、中学部それぞれの発達段階に応じたものとするために別々に設定した。以下は中学部のものである。

体験学習目標

(1)　実物に実際に関わる「直接体験」を通じて、美しいものや自然に感動する心などの豊かな感性を育む。
(2)　平素と異なる環境下での様々な出会いや感動体験を通じて、児童生徒の興味関心を喚起し各教科において主体的に学ぼうとする態度を育てる。
(3)　集団宿泊体験を通して、他者との共生や異質なものへの寛容な態度、自立心、自己抑制力、責任感、他人を思いやる心や社会貢献の精神を育む。
(4)　様々な職業人とふれあうことによって、人と社会の関わりを学び、社会人、職業人として自立していくために必要な、勤労観や職業観を育成する。

目標（2）達成のイメージ



過去に実施した主な体験学習は以下の通りである。

・3校文化交流会（韓国民楽小学校、インターナショナルスクールとの交流会）
・自然観察会（渡り鳥の様子の観察会、三角州の地形についての学習）
・伝統舞踊体験（國學院におけるカンカンスウォルレ・チャング体験及び鑑賞）
・宿泊体験学習（小学部、中学部別々に年度ごとにテーマを決めて実施）
・ナザレ園訪問、慶州見学（戦前からの在韓日本人との交流、国立慶州博物館見学）
・海上保安庁巡視船見学、国立海洋博物館見学
・広安里ビーチ環境改善体験
・グローバルギャザリング参加（釜山市主催国際交流行事）など

### 3．体験学習の教科との関連について

目標をどのように達成するかという点において、年間を通しすべての教科や行事に体験活動とリンクした学習を行った。学校における学びの重要性や必要性を理解し、さらに自ら学ぼうとする意欲を高めるためにも、教科とのリンクは必要不可欠であり、最も重要視した点である。

平成24年度　中学部自然体験学習教科との関連　宿泊学習について一部教科のみ抜粋

| | 月 | 中学部1年生 | 月 | 中学部3年生 |
|---|---|---|---|---|
| 特活 | 7 | ・体験学習の事前・事後学習や、集団行動のマナー、ルールに関する学習をする | 7 | ・体験学習の事前・事後学習や、集団行動のマナー、ルールに関する学習をする |
| 道徳 | 9 | ・主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること | 9 | ・主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること |
| 総合 | 9 | ・体験場所について調べ、まとめ、発表する<br>・インタビューや見聞きして学んだことを整理しまとめ、発表する | 9 | ・体験場所について調べ、まとめ、発表する<br>・インタビューや見聞きして学んだことを整理しまとめ、発表する |
| 国語 | 10 | ・体験したことを作文にする | 10 | ・「万葉集」遣新羅使となって、短歌を作る活動をする<br>・体験したことを作文にする |
| 社会 | 10 | ・歴史「古代までの日本」3国時代と済州島について学ぶ<br>・地理「アジア州」大韓民国と済州島の特色を学ぶ | 6 | ・「平等権」在日コリアンと済州島について学ぶ |
| 理科 | 5<br>7<br>11 | ・「植物の生活と種類」<br>・「大地の成り立ちと変化」火山活動と火成岩、地震と地球内部の働き、地殻変動等教科の学習をする | 4<br>6<br>11 | ・「生命の連続性」種の保存と自然保全そして済州島の固有動植物の学習をする<br>・「自然と人間」植物の生活と種類、大地の成り立ちと変化、生命の連続性等既習事項をまとめてのレポート作成および発表をする |
| 音楽 | 9 | ・「アジア・世界の音楽」済州島や近辺地域の民族音楽を鑑賞する | 9 | ・「アジア・世界の音楽」済州島や近辺地域の民族音楽を鑑賞する |
| 美術 | 10<br>11 | ・「文化遺産を守る」済州島の美術品・文化遺産や体験学習を表現する | 10<br>11 | ・「文化遺産を守る」済州島に残る美術品や文化遺産や体験学習を表現する |
| 保体 | 6 | ・韓国、済州島に残る伝統舞踊を学ぶ | 6 | ・韓国、済州島に残る伝統舞踊を学ぶ |
| 英語 | 9<br>10 | ・飛行機の搭乗、機内での会話、荷物の受け取りの表現を学習する | 11 | ・現在完了の表現を使って、旅行記を作成する |

## 4．宿泊体験学習について

年間を通して様々な体験学習を行ったが、最も力を入れて行ったのは、宿泊体験学習である。小学部は１泊２日で干潟やその周りの環境を学びに順天に行き、中学部は２泊３日で済州島に島の植物や地形の学習を主な目的として行った。

釜山日本人学校では、毎年宿泊学習を行っている。毎年行き先や学習内容を変えており、どのような力をどうやって子ども達につけていくのか、全教職員で協力して計画し実施している。

### (1) 計画と準備について

海外における体験学習では、①安全性が保たれるか、②目的に沿った学習活動が効果的に展開できるか、③費用が予算内で納められるか、という点について実際に現地へ赴き視察してくる必要がある。細かいチェックポイントは無数にあるが、大きく分けるとこの３点である。

国内でも同様の工程を経て体験学習を行っているとは思うが、言葉や文化の異なる国においては、日本の常識を捨て、現地の事情を学んだ上で計画を立てる必要があるため、非常に多くの時間と労力がかかってしまう。特に安全性については、比較的治安の良い韓国であるとはいえ、一番気を遣う点であった。宿泊を伴うということは食事をする機会があるということであり、子ども達に食べさせられる食事（アレルギー物質を含まない食品や辛くない食事）を安価に提供してくれる食堂を探すことにも苦労した。

中学部の済州島宿泊体験学習では、校長が自ら幾度となく休日に済州島に視察に行き、担当だった私も２度視察に行っている。２人合わせた視察延べ日数は10日を超えた。

### (2) 行程について

中学部は、済州島に２泊３日の行程で学習に行ってきた。済州島は小さな島ではあるが、自然豊かな観光地として知られており、３つの世界自然遺産や火山をもとにした独特な地形、数多くの博物館や資料館があるため、学ぶ環境は整っていた。以下は実際の行程である。

―１日目―

・翰林公園見学
（講話、熱帯植物園、民族村、鳥類園、火山洞窟）
・平和博物館見学（資料館、地下要塞）
・龍頭公園見学（ハメル記念館、浸食海岸）
・Belive it or not 見学
・天体観測

―２日目―

・漢拏山登山
・大浦海岸柱状節理帯見学
・職業講話

―３日目―

・ソプチコジ、クアンチギ海岸見学
・城山日出峰見学
・済州民族自然史博物館見学

大浦海岸柱状節理帯

漢拏山登山道

### (3) 事前事後学習について

小学部に関しては１年生から６年生まで全員の参加であり、特に低学年の児童にとっては初めての宿泊を伴う校外学習ということで、事前の保護者との打ち合わせや生活指導に力を入れている。中学部は、理科を担当していた校長が、済州島の成り立ちや、自生する植物について、社会科の教員は済州島の歴史を、英語・韓国語の教員は現地で必要となる会話についてそれぞれ指導した。また、音楽や美術では済州島の民族音楽や文化遺産について学ぶなど、それぞれの担当者がベクトルを合わせて事前事後学習に取り組んだ。

## 5．成果と課題

行事アンケートの結果では、宿泊体験学習が最も心に残った学習行事という結果であった。韓国においても、日本国内と同じように、体験学習を計画することは非常に大きな負担がかかったが、それでも多くの子ども達が学ぶ喜びを知ることができたという点で成果として充分である。

教科の学習に向かう姿勢が主体的になった証として、教科書にない知識を自ら調べ学ぶ子どもが増えたことがあげられる。この姿勢は、これからの時代を生きる子ども達にとって最も必要とされる力の１つであると考える。

課題をあげるとすると、やはり多くの労力がかかるという点である。日本人学校は財政基盤が強いわけではないため、人的資源も限られている。学校外の学習活動を行う際にはどうしても時間と労力をかけなければいけないため、教職員の負担は非常に大きい。この課題を解消するには授業料の値上げや文科省派遣教員の増員などが考えられるが、現状では厳しいと言わざるを得ない。

知恵と工夫で今後もより良い教育活動を行っていって欲しい。

## 6．終わりに

宿泊体験学習を終えた生徒の感想文にこのようなものがあった、以下は生徒作文の抜粋である。

（生徒作文抜粋）

漢拏山の後に行った正房滝でのことだ。正房滝は、水が海に直接落ちるという、とても珍しい滝だ。

私は、なぜこんな滝ができたのか、とても不思議に思った。今までに習った理科の知識を使って考えた結果、土地が隆起したことによって水が海に落ちるようになったのではないのかと予想した。そして校長先生に聞いてみたところ、私の予想は当たっていた。予想が当たっていたのでうれしかったが、何よりも、**自分が勉強したことを使って、身近にある疑問の答えを導き出せたことが、大きな自信になった。**

体験学習の実施によって私自身も子ども達と学び、学ぶ喜びを改めて知ることができた。また、宿泊体験学習を通じて子ども達同士の絆の深まりも感じることができた。各国の日本人学校では、海外ならではの体験学習が行われていると思うが、これらは非常に貴重な学習経験である。将来日本に帰る子ども達に、帰国してからはできないような体験や学びをできるだけ多くさせることは、日本人学校の使命でもあると考える。

私はすでに日本に帰国しているが、これからの教育活動においても釜山日本人学校における体験を基に、一層努力していきたいと考えている。